

大学入学共通テストに挑む

英語・筆記

批判的読みで意見・事実を判別

■ 平成30年度プレテストについて

滋賀県立膳所高校

大学入試共通テストの出題方針が発表された。これまでの試行テストは実際に行われる共通テストの性格をかなり正確に反映していると考えられそう。特徴的な点は、実際のコミュニケーションを想定した明確な場面、目的、状況設定を重視することや、テキストを読み、事実や意見等を整理する力、テキストの構成を理解する力、テキストの内容を理解して要約する力等を問うことを狙いとしていることだ。

これらは新学習指導要領の方向性とも一致する。特に「育成すべき資質・能力の三つの柱」の①知識及び技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力、人間性—のうち、②

は、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり伝えたりすることに関わる部分で、試行テストにも明確に反映されている。

生徒が学習する場面（ディベートやディスカッション、プレゼンテーションなど）や、資料やデータ等を基に考察する場面など、「生徒がどのように学んできたか」を意識した問題の場面設定となっていることも大きな特徴だ。

これらを踏まえると、授業で日常的にリーディングやリスニングによって受け取った情報を、使用目的に応じて整理して、スピーキングやライティングにつなげる活動を行い、

そうした活動に必要なスキルを生徒に習得させることが、結果的に共通テストに対応する力の育成につながるだろう。

第2問Bは「ディベートの準備をする場面」という設定があり、設問では与えられたテーマ（Mobile phone use in school should be limited.）の肯定派の意見、否定派の意見をそれぞれ事実と整理して読み分ける必要がある。A2レベルの設定にもかかわらず、やや正答率が低い問題だった。

実際の授業でも、教科書の英文で扱われている内容に関して、ディベートを行うという活動を行うことで、目的に応じた読み方や情報を整理する力、意見形成をして表現する力を養うことができる。過去に扱ったSelective Breeding（品種改良）について書かれた教科書の授業展開例を簡単に紹介したい。

プレテスト問題（一部抜粋）

第2問

B Your English teacher gave you an article to help you prepare for the debate in the next class. A part of this article with one of the comments is shown below.

No Mobile Phones in French Schools

By Tracy Wajé, Paris
11 DECEMBER 2017 • 6:07PM

The French government will prohibit students from using mobile phones in schools from September, 2018. Students will be allowed to bring their phones to school, but not allowed to use them at any time in school without special permission. This rule will apply to all students in the country's primary and middle schools.

Jean-Michel Blanquer, the French education minister, stated, "These days the students don't play at break time anymore. They are just all in front of their smartphones and from an educational point of view, that's a problem." He also said, "Phones may be needed in cases of emergency, but their use has to be somehow controlled."

However, not all parents are happy with this rule. Several parents said, "One must live with the times. It doesn't make sense to force children to have the same childhood that we had." Moreover, other parents added, "Who will collect the phones, and where will they be stored? How will they be returned to the owners? If all schools had to provide lockers for children to store their phones, a huge amount of money and space would be needed."

21 Comments

Newest
Daniel McCarthy 19 December 2017 • 6:11PM
Well done, France! School isn't just trying to get students to learn how to calculate things. There are a lot of other things they should learn in school. Young people need to develop social skills such as how to get along with other people.

問1 According to the rule explained in the article, students in primary and middle schools in France won't be allowed to [11].

- ① ask their parents to pay for their mobile phones
- ② bring their mobile phones to school
- ③ have their own mobile phones until after graduation
- ④ use their mobile phones at school except for special cases

問2 Your team will support the debate topic, "Mobile phone use in school should be limited." In the article, one opinion (not a fact) helpful for your team is that [12].

- ① it is necessary for students to be focused on studying during class
- ② students should play with their friends between classes
- ③ the government will introduce a new rule about phone use at school
- ④ using mobile phones too long may damage students' eyes

問3 The other team will oppose the debate topic. In the article, one opinion (not a fact) helpful for that team is that [13].

- ① it is better to teach students how to control their mobile phone use
- ② students should use their mobile phones for daily communication
- ③ the cost of storing students' mobile phones would be too high
- ④ the rule will be applied to all students at the country's primary and middle schools

問4 In the 3rd paragraph of the article, "One must live with the times" means that people should [14].

- ① change their lifestyles according to when they live
- ② live in their own ways regardless of popular trends
- ③ remember their childhood memories
- ④ try not to be late for school

問5 According to his comment, Daniel McCarthy [15] the rule stated in the article.

- ① has no particular opinion about
- ② partly agrees with
- ③ strongly agrees with
- ④ strongly disagrees with

■ 授業提案

■ 生徒の受容レベルと発信レベルのギャップを意識する

ワークシートは文全体を読んで概要をつかむためのパラグラフのタイトル選び、各パラグラフの要点を確認するためのgist questions、明示されていない内容を正しく読み取るreading between the linesなど、リーディングスキルを意識した構成にしている。

大切にしているのは、本文の表現をそのまま使用するのではなく、生徒の習熟度に合わせて言い換えることである。「コミュニケーション英語」に採用される教科書は、生徒が理解するのにやや困難を感じるレベル、つまり受容レベルとして必要な難易度の英文を扱ったものが選ばれていることが多い。

しかし、リーディングで得た情報をスピーキング活動で使うためには、情報内容を生徒の発信レベルの構造や表現とリンクさせていく必要がある。ワークシートの設問や選択肢を作る際、生徒の発信レベルの構造や語彙を使うよう心掛けることによって、生徒は発信レベルの語彙や表現を蓄積し、後で行う活動での生徒の発話が、より活発になることが期待できる。また、プレテストでも選択肢は本文の情報が言い換えられているので、このような意識は常に持つておく必要がある。

■ opinionとfactを判断する

このレッスンのワークシートでは、特に事実か意見か、意見であれば誰の意見かを整理する活動に焦点を当てた。ワークシートには本文で言及されている情報を説明した英文を10個ほど挙げておく。前述のように、本文で使われている表現を抜き出すことは避け、生徒の発信レベルに近い表現でパラフレーズした英文にする。

授業では、正解かどうかではなく、「なぜそう判断するのか」を意識し、読み方のバリエーションを広げて生徒のリーディングスキルの向上につなげる。

opinionかfactかをどうやって判断するのか。情報内容からのアプローチとしては、一般的に「証明することができること＝事実」「証明できない

【授業展開】

1～3 限目

- ▶ 本文を読んだ後にselective breedingについてディベートを行うことを予告する。
- ▶ ワークシートを利用して、本文の全体の構成、筆者の意図などを理解する。
- ▶ 本文中の情報についてfact / opinion of breed-banning supporters / opinion of breed-banning challengers/opinion of the writeのどれに該当するのかを判断する。

4 限目

- ▶ 補足英文を読み、selective breedingの利点と問題点を整理する。
- ▶ ディベートの準備を行う。

5 限目

- ▶ "It is wrong to improve dogs by selective breeding"を命題としてディベートを行う。その後、自分の意見を書く。

い考えや信念＝意見」といえる。英文を読み慣れた人にとっては当たり前に行っていることだが、英文の理解そのものに負荷がかかるslow learnerにとってはそう簡単なことではない。

もう一つの側面として、特定の文法や表現が持つ機能の理解がある。以下に挙げたものは試行テスト第2問Bの選択肢である。

- ▶ students should play with their friends between classes
- ▶ the cost of storing students' mobile phones would be too high

shouldは助言などをするとき用いる、wouldは可能性や話し手の推量を表す、といったことが、日々の授業の活動を通じて直感的に理解できるようになっていることが大切だ。試行テストを見る限りでは、文法の単独問題は姿を消すとしても、特定の表現や構造が持つ機能に注目して「どのような場面で使われるか」を意識した指導はこれまで以上に必要になる。

「事実」を読み取り、情報を「事実のように思われている一般的な考え方」や「事実ではない書き手の考え」などに整理できることがcritical reading（批判的読み）の基本であり、ディベートなどで、論理的でかつ説得力のある議論をするために必要なスキルだといえる。

■ 教科書のテーマと関連した英文を読む

教科書で扱われている題材を、別の角度から切り取った英文を読むことは、生徒の意見形成に欠かせない。今回は、教科書を読んだ後、selective breedingについて、異なる立場から述べられた二

つの英文を読んだ。目的は「ディベートの準備」であるため、利点とその具体例、問題点とその具体例、などに分類しながら英文を読み進めた。

■ 具体例と上位概念を分類する

この段階に限ったことではないが、リーディングの際には、具体例とその上位概念、つまり「何を伝えたいための具体例なのか」を整理することも重要だ。論理的に表現するためには、自分の主張と、それを支える的確な具体例を示せることは有用なスキルであり、リーディングの際に意識することで、さまざまなパターンに出会うことができる。

■ ディベート活動を行う

ディベートといっても、あまり形式的なことにこだわらず、肯定または否定の立場に立って、「その根拠を明確な構成を使って相手に伝える」ことを本質と捉えて授業に取り入れている。情報はリーディングで得たものに加えて自分で収集し、表現はワークシートや教員が授業中に使用する表現などで発信レベルのものを蓄積し、自信を持って相手に伝えられるように、それぞれのステップを授業展開に忍び込ませることが活発なやりとりにつなげる鍵となる。

目的に応じた読みをしながら、多くの英文に触れ、英文を読んで理解したことや得た情報を使ってスピーキングなどのアウトプット活動を行う。それによって生徒の思考がアクティブで、より深まりのあるものになるような授業づくりを、本校では英語科全体で目指している。

2019 第6回

夏の教育セミナー

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）

講演者からのメッセージ

WEBからソクソクお申し込みをいただいています!

お申込み受付中!

6年目となるよ! 本年は実践型へ!

分科会は、教科別の授業実践を選べます!

選べる4教科 ▶ 英語 数学 国語 探究 new!

各教科の授業実践

実際に高校で指導している先生からご紹介いただきます。今年は「探究」を加えて、英語、数学、国語の教科別に、授業案や新テスト解説などを行います。

英語

● 東進ハイスクール・東進衛星予備校 / 安河内哲也 先生 東京 福岡 札幌 横浜 大阪 広島

「すぐに使える帯活動最新アイデアのご紹介とその実践例」

授業のやり方を知願伝達の講義型授業から、活動型授業に切り替えて、はや数年が経ちました。その間に日本中の先生方から最新の方法を学び、教室で実践してきました。この分科会では、その中から、生徒たちのリスニング力やスピーキング力の向上に特に効果があった活動、楽しくモチベーションが上がった活動をセレクトして紹介します。また、すぐに使えるパワポのスライドデータも参加者と共有いたします。

● 新渡戸文化小中高校 / 山本崇雄 先生 札幌 金沢

変わりゆく社会の中で、英語の授業をどうアップデートしていけばいいのでしょうか。本分科会では、教師が生徒に「教える」から、教師と生徒とともに「創造する」授業デザインを具体的な事例と体験を通して提案していきます。

● 滋賀県立膳所高校 / 富永幸 教頭 神戸 千葉

生徒の心を動かす授業、生徒の目が輝く授業、生徒の思考がアクティブな授業... そんな魅力ある授業作りを大切にしながら、入試改革や次期学習指導要領の方向性を踏まえて、持続可能な授業改善と一緒に考えましょう!

数学

● 東山高校 / 鶴岡貴司 先生 東京 福岡

試行調査の分析と新学習指導要領「解説」を合わせた内容に基づき、普段の授業で活かせる新テストに向けた内容を具体的に紹介するとともに、学力の3要素を構築できるような題材を扱いたいと思います。

● 立命館宇治高校 / 酒井淳平 先生 札幌 千葉

数学の授業を通じて育てたい力を考えて授業の中で実践したときに、結果的に新テストにも対応した授業になります。本分科会では新テストの傾向をふまえて、数学を通じて育てたい力や授業のあり方を考えます。

● 東京都立西高校 / 村形政信 先生 神戸 広島

主体的な学びには予想を、対話的な学びには比較をという観点で、普段の授業の中でのちよとした工夫をお話します。また大学入学共通テストにむけ、定期テストに出題した問題をもとに問題作成の難しさなどもお話を予定しています。

国語

● 渋谷教育学園渋谷高校 / 河口竜行 先生 名古屋 広島

「国語記述式問題の採点」をテーマに、ワークショップ形式で実施します。新テストの問題について、また、そもそも授業で生徒たちが身につけるべき国語の力とは何なのかについて等、参加者同士でともに考える機会をしたいと思います。

● 中央大学附属高校 / 齋藤祐 先生 札幌 福岡

探究学習って教科学習と何が違うの？ ルーブリック評価は定期テストの代わりになるの？ AIやICTがもたらした近未来、教員は役割をどう変えていく？ 今こそ学校が存在する意義を、いっしょに考えましょう。

探究 new!

● 茨城県立並木中等教育学校 / 中島博司 校長 東京 福岡

本校は、開校12年目の中高一貫校です。開校当初から探究活動に取り組みしており、2017年度からは理数探究を先行実施しています。分科会では、本校の理数探究の取組とともに、探究につながるオリジナルの「アクティブ・ラーニング」についてお話しします。

● 立命館宇治高校 / 稲垣桃子・酒井淳平 先生 大宮 金沢

探究の実践を進める上で、大切なのはHOWではなくWHYです。本分科会では文科省の指定を受けて取り組んだ実践を紹介しつつ、なぜ探究なのかについて考え、これからますます重要になる探究の本質に迫ります。

● 鳥根県立出雲高校 / 岩田史樹 先生 松山 大阪

本校はSGH中間評価において、全校体制により課題研究を推進していることを高く評価されました。本校で構築した全校指導体制と、中間評価以降の変遷、また指導の際に見えてきた課題やそれに対する対応について紹介します。

■ 日程と講演者などの詳細は、本紙の次ページ（最終面）またはホームページをご覧ください。

■ 講演者情報は随時更新します。詳細はホームページをご覧ください。

夏の教育セミナー summer-seminar.com

夏の教育セミナー 検索

